

日 時 平成26年3月19日（水曜日）午後2時から午後4時10分まで

場 所 宇都宮市役所14階 14A会議室

出席者 別紙名簿参照

内 容 1 開会

2 委員紹介、あいさつ

3 議事

(1) 平成25年度の取組及び平成26、27年度の方向性について

(2) 中間評価及び後期計画策定に向けた取組について

4 自転車を取巻く状況等について（講話）

(1) 栃木県版自転車利用環境創出ガイドラインの策定について

国土交通省関東地方整備局宇都宮国道事務所

計画課長 木住野 誠 氏

(2) 自転車を取巻く最近の状況について

～自転車の走行空間と高齢者の自転車利用の新しい方向～

株式会社三井住友トラスト基礎研究所

研究理事 古倉 宗治 氏

5 閉会

【主な発言・意見】

2 委員紹介、あいさつ

<古池会長>

- ・ 私事ではあるが、2月5日の夕方、自転車で車道を走行していたとき、後方から車が来たため、歩道に上がろうとしたが、その際、段差でバランスを崩し、転倒してしまい左腹部をぶつけてしまった。その後、痛みが引かないため、病院へいったところ、肋骨を骨折しており、全治一ヶ月と診断を受けた。初めての事故であったが、ヘルメットを被っていたため、大事に至らなく良かった。
- ・ 宇都宮市交通安全審議会（平成26年2月14日開催）の報告によると、平成24年度、宇都宮市において7人が自転車事故で亡くなっており、全員が高齢者である。その中で、4人の方が頭部を損傷し、亡くなった。自分自身のことを当てはめてみると、もしヘルメットを被っていなかったら、大惨事になっていたと思う。改めてヘルメットの重要性を痛感した。
- ・ 3月4日の毎日新聞に自転車の安全対策に関する記事が掲載されたので紹介したい。人口10万人あたりの自転車事故の減少率について、栃木県が全国平均を上回っており、08年から12年の事故減少率が32%（全国平均19%）と掲載されている。
- ・ 掲載にあたり、毎日新聞から取材を受け、減少率の高い理由の一つにヘルメットの着用促進をあげたが、掲載とはならなかった。しかし、記事には、自転車レーンの整備効果が取り上げられており、市の取組に対する結果が出たと考えられる。

- ・ 記事には、都道府県別の自転車レーンの総延長が掲載されており、栃木県は全国のトップであり、2位の神奈川県の数倍以上の整備を行っている。これは、昭和40年代、50年代の自転車ブームの頃に整備を推進したと考えられる。宇都宮市における近年の整備では、10km以上の自転車レーンを整備しており、宇都宮市が自転車の先進都市であることがデータ上でも表れている。
- ・ その中でも、自転車のまち推進計画の役割は大きく、大変重要な計画である。計画の策定にあたり、古倉先生には策定懇談の会長を担っていただき、大変お世話になりました。その成果がここに出ているのではないかと考える。
- ・ 今後、日本、世界において自転車利用者が増えていく中で、宇都宮市が自転車先進都市としてあり続けるため、自転車のまち推進協議会の各委員の協力が必要である。本日も皆様から貴重なご意見をよろしくお願ひしたい。

3 議事

(1) 平成25年度の実組及び平成26、27年度の方角性について

(2) 中間評価及び後期計画策定に向けた実組について

<古池会長>

- ・ 議事(1)と(2)について、併せて事務局より説明をお願ひしたい。

<事務局(宇都宮市交通政策課)>

- ・ 資料1説明

<古池会長>

- ・ ただいまの説明について質問等があればお願ひしたい。
- ・ まず、私からお聞きするが、チャレンジ目標の交通分担率について、平成12年は20%であるが、平成22年は17%に下がっている。何か原因はあるのか。

<事務局>

- ・ 本計画を策定した平成22年当時の最新の国勢調査のデータが平成12年のものであり、その分担率を活用した。結果、後追いになってしまったが、計画策定時の分担率が17%であることを把握したこととなる。
- ・ 平成12年から22年にかけて、全国的に自転車利用率が下がっており、宇都宮市も同様であるが、目標値は変更せず、引き続き事業を推進していく。

<古池会長>

- ・ 他の目標値についても国勢調査のデータを活用するのか、あるいは、来年度実施する基礎調査の結果を踏まえて、設定するのか。

<事務局>

- ・ 本計画を策定したとき、チャレンジ目標ということで、ハードルは高いが、市民に分かり易い目標値を設定したことから、今後の目標値についても同様の考えで設定していきたい。
- ・ また、設定にあたっては、各委員のご意見を伺いながら、設定していきたい。

<古池会長>

- ・ 昨年4月から、中学生の自転車通学におけるヘルメット着用が義務付けられたが、国勢調査において、中学生は調査対象に含まれるのか。

<古倉アドバイザー>

- ・ 国勢調査は、15歳以上が対象であることから、高校生以上である。

<古池会長>

- ・ 宇都宮市にある中学校25校のうち、23校が自転車通学を認めている。国勢調査は高校生以上が対象であるが、実際の自転車利用者はもっと多いはずである。利用者数や分担率の把握にあたり、中学生も含めていただくよう、検討していただきたい。

<渡辺委員>

- ・ 自転車走行空間の整備推進にあたり、必要に応じて、歩道を削減し、自転車レーンを確保しても良いと思う。
- ・ 自転車走行空間とバスとの共存について伺いたい。自転車レーン等が整備されている場合、バスにどのように乗降するのか。バスは自転車レーンに停車するのか、あるいは自転車レーンを避けて車道に停車するのか。また、乗降する際に、自転車と接触する可能性もある。現時点での考えを教えてください。

<事務局>

- ・ バスが走行している路線に自転車レーンを整備する場合、バス停付近に自転車レーンを整備しない事例が多く、バス停付近だけ、交通規制をかけず、カラー舗装も行わない。その場合、バスに乗降する際は、基本的に一般的な路線と同様に乗降することとなる。

<古池会長>

- ・ 宇商通りについては、バス停付近を外して自転車レーンが整備されている。
- ・ バス停の処理について、課題も多いことから、各自治体は苦戦しているはずである。国のガイドラインに記載されているが、現場の状況により、歩道の削減や交通島の整備など様々な手法がある。いずれにしても、乗降者と自転車の交錯を防ぐ必要がある。
- ・ また、いちょう通りについて何うが、今後、カラー舗装の箇所を車道の位置まで下げるのか。

<事務局>

- ・ いちょう通りについては、実験的に歩行者と自転車の通行箇所を構造的に分離している。車道との段差をなくし、車道と同じ位置に引き下ろすことは行わず、当面、現況のままである。
- ・ 現在、整備を進めている「西原・宮の原通り」、「旧鹿沼街道」については、今年度、詳細設計を行い、来年度に整備を行う予定であり、断面構成の見直しを行いながら、自転車レーンの確保に努めているところである。
- ・ また、平成26、27年度に整備を行う「文星女子高前通り」、「作新前通り」についても道路空間を再配分しながら、自転車レーンの整備を進めていく。

<渡辺理事>

- ・ 多少、歩道を削減してでも、積極的に自転車レーンの確保に努めて欲しい。

<古池会長>

- ・ 歩道に十分なスペースがある場合は検討できるが、歩道がない路線もあることから、それぞれの状況に応じた整備を行って欲しい。

<木住野課長（宇都宮国道事務所）>

- ・ バス停付近の整備について、国のガイドラインには自転車レーンの幅員や道路空間、バスの通行量などを踏まえた整備手法を幾つか掲載している。

<古池会長>

- ・ ガイドラインは様々ケースを想定し、細かく整備事例を掲載している。それぞれの地域の状況に応じて、ベストな選択をしていただきたい。

<古倉アドバイザー>

- ・ 自転車走行空間の整備にあたり、交差点をどのように整備するかが重要である。市道においても矢羽根などを活用した整備を進めていただきたい。

<古池会長>

- ・ 市道においても、平成24年度に整備した「富士見通り」の交差点に矢羽根を設置している。今後、国道4号線の矢羽根を皮切りに、整備が促進されると思う。市道において、「富士見通り」以外に矢羽根を設置した路線はあるか。

<事務局>

- ・ 平成24年度に整備した白楊高校北側の路線（市道3761号）の一部に矢羽根を設置した。

<古倉アドバイザー>

- ・ 街頭指導等の啓発活動は、交差点など事故の多い現場を重点に実施したほうが良い。交差点は自転車の事故が多く、自転車事故以外と比較すると約2倍の割合である。事故件数などを踏まえ、危険性の高い箇所から取組を進めていただきたい。
- ・ また、左側走行と車道走行を徹底することにより、大半の事故を防ぐことができる。

<古池会長>

- ・ 自転車の安全対策の根幹は、教育にあると思う。スケアードストレイトなどの交通安全教室は中学生・高校生だけでなく、地域住民も参加できるよう取り組んでいただきたい。

<事務局>

- ・ スケアードストレイトは意識啓発に効果的であるため、今年度から、地域住民にも参加していただいている。今後も積極的な参加につながるよう取り組んでいく。

<古池会長>

- ・ レンタサイクルに電動アシスト自転車を導入しているが、利用率はまだ30%代であり、十分な定着が図れていない。利用料金はいくらか。

<事務局>

- ・ 普通自転車は1回100円、電動アシスト自転車は1回300円である。

<古池会長>

- ・ 300円でも他の自治体と比較すると安いですが、100円と比較すると抵抗を感じるかもしれない。ヘルメットは貸し出しているのか。

<事務局>

- ・ ヘルメットは希望者に貸し出している。

<古池会長>

- ・ おそらくヘルメットの希望者は多くないと思う。利用促進策として、例えば、ヘルメット着用者には料金を割引くなどのインセンティブを設定しても良いかもしれない。
- ・ 特に、電動アシスト自転車は高齢者の利用が想定されることから、頭部を守る必要性も高い。

<古池会長>

- ・ 自転車マップについて伺いたい。今年度のマップは中心部版と郊外部版を一つにまとめ、より見やすいものとなった。マップに掲載されているサイクリングルートは、道路上の案内標識と連動しているのか。
- ・ 以前、マップ上にルートは設定されているが、実際に走行したとき、何に従って走れば良いのかわからないという意見を伺ったことがある。できれば道路上にマップのルートに従った案内標識やサイン整備を行っていただきたい。ヨーロッパでは、あと何キロなどと分かりやすく道路上に案内されている。

<事務局>

- ・ 道路上にルート標記は行っていない。以前、自転車マップを見てもどこで曲って良いかわからないという意見をいただいたことから、今年度作成したマップについては、主要な交差点名を記載した。自転車マップは毎年更新していくので、今後ご意見を踏まえながら、よりわかりやすいものにしていきたい。
- ・ また、道路上への標記については、様々な課題があるため、今後、サイン整備方針や自転車のまち推進計画後期計画のなかで検討していきたい。

<古池会長>

- ・ 携帯電話やスマートフォンなどのアプリで自転車ナビゲーションがあると聞いたことがある。また、ソフトによっては、開発費用もあまりかからないという情報もある。宇都宮市でもオリジナルの案内ソフトなどを検討していただきたい。

<古倉アドバイザー>

- ・ 短時間駐輪スポットについて情報提供したい。姫路市で商店街に短時間駐輪スポットを整備した事例がある。商店街の空きスペースを活用し、短時間駐輪スポットを数箇所に整備した。その結果、放置自転車が半分になり、自転車による来街者が1.2倍になったとのことである。
- ・ 店舗近接に駐輪スポットが無いと、来街者は自転車をどこにでも放置してしまうが、駐輪スポットがあると、駐輪スポットに駐輪する傾向があることから、違法駐輪の減少に効果的である。

<古池会長>

- ・ 以前、JR宇都宮駅西口に放置自転車が見受けられていたが、駐輪ラックを整備したことにより、駅前の放置自転車が激減した。駐輪ラックは効果的であることから、駅前以外にも駐輪ラックを整備すべきである。空き店舗などを活用し、駐輪ラックを整備することにより、来街者が増えるのではないのか。ぜひ、検討していただきたい。

4 講話

(1) 栃木県版自転車利用環境創出ガイドラインの策定について

<宇都宮国道事務所 木住野課長>

- ・ **資料2**説明

<古池会長>

- ・ ただいまの説明についてご質問・意見等があればお願いしたい。

<柿沼委員>

- ・ 車道を逆走することは、非常に危険であることから、矢羽根や案内看板により、逆走が減少したことは良いことである。

<古池会長>

- ・ 車道の順走も増えているが、大多数は歩道内の順走・逆走であることから、歩行者と自転車の通行部分を分離するのが効果的であるかもしれない。

<齊藤委員>

- ・ ヘルメット着用について、中学校でヘルメットを着用していても高校生になると着用しなくなる。
- ・ また、自転車レーンなどを逆走する自転車もまだ見受けられる。昨年12月の道路交通法の一部改正により、今後、ルール・マナーを指導する場面も更に増えていくだろう。

<古池会長>

- ・ 自転車レーンに走行方向を示す矢印を標示したほうが良い。矢印を逆走することは抵抗を感じることから、効果的である。競輪場通り等に矢印は標示しているのか。

<事務局>

- ・ 競輪場通りを含め、近年整備した路線については、走行方向を矢印で標示している。

(2) 自転車を取巻く最近の状況について

～自転車の走行空間と高齢者の自転車利用の新しい方向～

<古倉アドバイザー>

- ・ **資料3**説明

<古池会長>

- ・ ただいまの説明についてご質問・意見等があればお願いしたい。

<齊藤委員>

- ・ 高齢者に対する安全講習会などの取組を強化すべきであり、関係機関が連携し、講習会への参加者を増やす必要がある。そうすることで事故を未然に防ぐことにつながる。

<古池会長>

- ・ 様々な講習会があると思うが、まずは高齢者に講習会に積極的に参加していただくことが課題である。

<島崎委員>

- ・ 南警察署では、高齢者を対象に講習会を行っており、春と秋の交通安全運動期間に合わせて実施している。

<古池会長>

- ・ 警察で実施している講習を受けると自転車免許証を発行していただけることから、積極的な参加につながるのではないのか。
- ・ 加藤委員に伺いたい。高校生に対してルール・マナーを教える場面も必要であるが、高齢者に対してどのようにルール・マナーを指導していけばよいのか、ご意見を伺いたい。

<加藤委員>

- ・ 高校生も高齢者も、一人ひとりに対して指導していくことが効果的であり、街頭指導の際は、警察官等と連携しながら、個別に指導を行っている。

<古池会長>

- ・ 以前、ある大学が、中学生のときにヘルメットを着用していた学生が高校に進学した際、中学生のときにヘルメットを着用していない学生より、ルール・マナーを守る傾向があるという、研究結果を発表した。
- ・ 宇都宮市内の自転車通学の中学生はヘルメット着用が義務化されていることから、今後もルール・マナーを守ってくれることを期待したい。

<古池会長>

- ・ 以上をもって予定していた議事及び講話は終了となった。次回は、7月頃開催する予定であり、その際、古倉アドバイザーの講話や宇都宮国道事務所の矢羽根の経過報告もいただければ幸いである。本日はこれで終了とする。

平成25年度「宇都宮市自転車のまち推進協議会」 出席者名簿

委員区分		所属・役職	氏名
学識経験者		宇都宮共和大学シティライフ学部教授	◎古池 弘隆
関係団体	自転車業界	栃木県自転車軽自動車商業協同組合宇都宮支部長	島崎 庄二
		栃木県自転車競技連盟理事長	大島 研一
		NPO法人栃木スポーツコミッション理事	柿沼 章
	利用者	栃木県バイコロジー運動推進協議会理事長	加藤 恒男
		宇都宮市交通安全推進協議会連合会会長	森崎 常正
		宇都宮地区高等学校交通問題地域連絡協議会代表	井澤 崇典
	交通事業者	一般社団法人栃木県バス協会業務部長	船木 孝男
	その他	宇都宮商工会議所常務理事	渡辺 政行
		宇都宮観光コンベンション協会コンベンションチーフ	斉藤 幸
行政	国	国土交通省関東地方整備局宇都宮国道事務所長	戸倉 健司 (代理:清水副所長)
	栃木県	栃木県県土整備部交通政策課長	福田 晴康 (代理:谷課長補佐)
		栃木県警察本部交通部交通規制課長	福原 泉 (代理:鈴木企画調整係長)
	宇都宮市	宇都宮市総合政策部参事(交通担当)	本橋 道正
		宇都宮市建設部次長	大島 守

◎：会長

アドバイザー	株式会社三井住友トラスト基礎研究所研究理事 (京都大学大学院・麗澤大学講師)	古倉 宗治
事務局	宇都宮市総合政策部交通政策課	